

第三項 執行猶豫取消宣告ノ條件及ヒ其效果

第一、執行猶豫取消宣告ノ條件

執行猶豫取消ノ宣告ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ナラサル可カラス

一、執行猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ(刑法

第二十六條第一號)

執行猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトヲ要スルカ故ニ罪ヲ犯シタルモ刑ノ言渡ヲ受ケサル場合又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタルモ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルニ非サル場合ノ如キハ本號ニ該當スルモノニ非ス

執行猶豫ノ期間内トハ執行猶豫宣告ノ裁判確定後其期間滿了迄ヲ指稱スルノ觀念ナリヤ將タ執行猶豫ノ宣告後其裁判確定以前ヲモ尙包含スルノ觀念ナリヤ本問案ニ對シテハ學說判例必スシモ一ナラスト雖本號ハ其執行猶豫ノ宣告後之ヲ與フルノ情狀全然除却セラレタル場合ニ關

スル規定ナルカ故ニ單ニ法文ノ字句ニ拘泥セス執行猶豫ノ宣告後其裁判確定迄ノ間ヲモ包括規定シタルモノナリト解セサル可カラス(法律新聞第六百七十九號所載拙論文參照)

次ニ問題トナルハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトカ執行猶豫ノ期間内タルコトヲ要スルヤ否ヤニアリ通説ハ猶豫ノ期間内タルコトヲ要スト解セリ然レ共執行猶豫ノ完成ハ現在ノ犯罪後一定ノ期間内ニ再ヒ罪ヲ犯スヲフ解除條件到來セサルコトヲ要スルモノナルカ故ニ其期間内ニ於テ再ヒ罪ヲ犯スヲフ解除條件到來シタル場合ニ於テハ執行猶豫ノ完成ハ當然不能ニ歸ス可キモノナリト謂ハサル可カラス從テ其犯サレタル罪ニ付禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトカ執行猶豫ノ期間内ナルト否トノ如キハ執行猶豫宣告ノ取消ニ何等ノ影響ナキモノトス

二、執行猶豫ノ宣告前ニ犯シタル他ノ罪ニ付禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

前號ニ於テハ執行猶豫期間内更ニ罪ヲ犯シタルコトヲ要スルモ本號ニ於テハ執行猶豫期間内更ニ罪ヲ犯シタルコトヲ要セヌ其期間前犯シタル罪ニ付其期間内禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトヲ要スルノミ

三、前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行終了又ハ免除ノ日ヨリ七年以上ヲ經過シタル者ヲ除クノ外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

本號ニ所謂猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキトハ即チ現在ニ執行猶豫ノ言渡アリタル犯罪カ其直前ノ犯罪ニ對スル刑罰ノ執行終了又ハ免除ノ日ヨリ七年以内ニ犯サレタルモノナルコト發覺シタル場合ヲ指稱スルモノトス是レ蓋本號ノ如キ場合ニ於テハ犯人ノ前犯包藏ニ因リ裁判當時其消極的條件ノ存在ヲ知ラス執行猶豫ノ宣告ヲ爲シタルモノナルカ故ニ如此事實ノ發覺セラレタルニ不拘尙之カ取消ヲ爲スコトヲ得サルモノトセハ其前犯ヲ包藏シ

タル犯人ヲシテ不當ニ刑罰ノ執行ヲ免レシムルノ惡現象ヲ呈スルニ至ルヘケレハナリ

第二、執行猶豫取消宣告ノ效果

執行猶豫取消ノ宣告ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ス可ク其請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之カ取消ヲ宣告ス可ク(刑法施行法第五十六條第二項參照)其取消宣告ノ效果タルヤ執行猶豫ノ宣告アリタル刑罰ヲシテ茲ニ完全ニ且即時ニ其執行力ヲ發現セシムルモノナリトス而シテ其執行期間ハ刑法第二十三條第二項ニ依リ現實ニ執行ヲ受ケタル日ヨリ起算ス可キモノナルヤ勿論ナリ

第四節 財産刑ノ執行

財産刑ハ之ヲ別テ罰金刑、科料刑、沒收刑ノ三種トナスト既ニ敘述シタル所ノ如シ而シテ罰金刑、科料刑ハ等シク主刑ニシテ且金錢ヲ目的トスル刑罰ナリト

雖沒收刑ハ附加刑ニシテ且有体物ヲ目的トスル刑罰ナルカ故ニ其執行ノ方法亦其態様ヲ異ニスルモノアルヤ論ヲ竣タス乞フ左ニ逐次之ヲ論セン

第一款 罰金刑及科料刑ノ執行

罰金刑及ヒ科料刑ノ執行ハ其確定裁判ニ因リ言渡サレタル金額ヲ犯人ヨリ徵收スルニ依リテ之ヲ爲ス而シテ之カ徵收ハ檢事ノ指揮ニ依リ執達吏之ヲ爲シ其不完納ニ因リ換刑處分トシテ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ指揮ニ依リ司獄官常ニ之ヲ執行ス可キモノトス

抑刑罰ハ其種類ノ何タルヲ問ハス其言渡ヲ爲シタル裁判確定スルニ非サレハ執行スルヲ得サルト同時ニ其裁判ノ確定ニ因リ直ニ執行スルヲ得ルヲ以テ其原則トス然ルニ我刑法ハ其第十八條五項ニ於テ罰金ニ付テハ其裁判確定後三十日内科料ニ付テハ其裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得サル旨規定シタルヲ以テ如上ノ期間ヲ經過スルニ非サレハ執行權發生スルモノニ非サル旨論スルモノアリト雖採ルニ足ラス蓋同條ハ

罰金刑若ハ科料刑ノ執行權發生ノ時期ヲ規定シタルモノニ非スシテ單ニ其不完納ニ因リ勞役場留置ノ執行ヲ爲シ得可キ時期ヲ規定シタルニ過キサレモノナルカ故ニ如上ノ期間ヲ經過スルニ非サレハ換刑處分ニ基ツク留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得スト雖罰金若ハ科料ノ徵收ハ其裁判確定ノ日時ヨリ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

罰金刑若ハ科料刑ノ言渡ヲ受ケタル者任意ニ之ヲ納付セサル場合ニ於テハ其執行機關タル執達吏ハ非訟事件手續法第二百八條民事訴訟法第六編以下ノ規定ニ依リ其強制徵收ヲ爲スコトヲ得ヘシ(刑事訴訟第三百二十條第三項參照)而シテ強制徵收ノ方法ニ依ルモ尙徵收スルコト能ハサル全部若ハ一部ノ金額ニ付テハ其金額ヲ換算シ以テ勞役場留置ノ處分ヲ爲ササル可カラス(刑法第十八條第一項乃至第三項第六項乃至第八項)

換刑處分ハ罰金若ハ科料ノ不完納ニ因由スルモノナルカ故ニ其不完納ナル事實發生スルニ非サレハ之カ言渡ヲ爲スコトヲ得サルハ當然ナリト雖我刑法ハ

罰金刑若ハ科料刑ノ言渡ト同時ニ其不完納ノ場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之カ言渡ヲ爲ス可キ旨規定シタルモノアルヲ以テ此レニ從ハサル可カラサルヤ論ヲ俟タス(刑法第十八條第四項)

罰金刑ハ其最下限ヲ二十圓トセルモ其最高限ニ付テハ何等ノ規定アラサルヲ以テ其不完納ニ基ツキ之カ換刑處分ヲ實施スルニ際リテハ其罰金ノ額ニ應シ無制限ニ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得可シト雖若シ夫レ斯クノ如クシハ夫ノ長期ノ自由刑ト殆ント擇ム所ナキニ至ルヲ以テ我刑法ハ勞役場留置ノ期間ニ付テハ其長期一年ヲ超ユルコトヲ得サル旨規定シタリ(刑法第十八條第一項)而シテ留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス(同條第八項)

科料刑ハ其多額僅ニ二十圓ニ滿タスト雖二箇以上ノ科料ハ之ヲ併科ス可キモノナルヲ以テ(刑法第五十三條第二項)實際上亦多額ニ上ルコトアル可ク從テ留置ノ日數亦長期ニ亘ルコトアル可キカ故ニ我刑法ハ罰金刑ト同一ノ理由ニ基ツキ科料刑ニ付テモ亦其長期六十日ヲ超ユルコトヲ得サル旨規定シダリ(刑法

第十八條第三項)而シテ留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得サルコト罰金刑ト異ナラス(同條第八項)

勞役場留置ノ處分ニ付シタル者ニ對シテハ行政官廳ハ其情狀ニ依リ何時ニテモ假出場ノ處分ヲ爲スコトヲ得可シ(刑法第三十條第二項第一項)然リ而シテ本條ニ基ツキ假出場ヲ許可シタルモ之ヲ與フルノ情狀全然除却セラレタル場合ニ於テハ何時ニテモ之カ取消ヲ爲スコトヲ得可ク又其出場ノ日數ハ之ヲ刑期ニ算入スルヲ得可キモノトス若シ夫レ其詳密ニ至リテハ第三節第三款ヲ參照ス可シ

罰金刑又ハ科料刑ノ執行ニ關シ茲ニ特ニ講究ヲ要ス可キ事項アリ何ソヤ他ナシ檢事ハ罰金刑又ハ科料刑ノ宣告アリタル裁判確定時點以後ニ於テハ民法第四百二十三條若ハ第四百二十四條等ノ規定ニ依リ間接訴權若ハ詐害行爲廢能ノ訴權ヲ行使スルコトヲ得ルヤ否ヤニ在リ

蓋罰金又ハ科料ハ純然タル一ノ公法上ノ債權ニシテ畢竟財産上ノ滿足ヲ求ム

ルコトヲ以テ其目的トスルモノナルカ故ニ其性質上應用ス可カラサルモノ若ハ特ニ禁止的明文存在スルモノヲ除クノ外私法上ノ債權ニ關スル規定ヲ適用ス可キモノナルコト債權ノ性質上疑ヲ容レサル所ナルヲ以テ本問案ハ宜シク之ヲ肯定論斷ス可キモノトス

第二一 款 沒收刑ノ執行

沒收刑ノ執行ハ檢事ノ指揮ニ依リ執達吏之カ實施ヲ爲ス可キコト罰金刑若ハ科料刑ト差異アルヲ見ス只罰金刑若ハ科料刑ニアリテハ一定ノ期間ヲ經過スルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得スト雖沒收ハ其不完納ニ因ル留置ノ場合アラサルハ勿論何等特殊ノ規定ナキカ故ニ其宣告ノ裁判確定ト同時ニ直ニ之カ執行ヲ爲スコトヲ得可シ
沒收刑ノ執行ハ執達吏之ヲ爲スヲ通則トスト雖其沒收物品ニシテ破壊又ハ遺棄ス可キモノアルトキハ檢事之カ處分ヲ爲ス可キモノトス(刑事訴訟法第三百二十條第四項參照)

第五章 刑罰ノ消滅

茲ニ所謂刑罰ノ消滅トハ刑罰執行權ノ消滅ナリ換言スレハ特定ノ犯人ニ對シ成立シタル刑罰執行權ノ消滅ヲ謂フ

刑罰執行權ノ消滅原因ハ之ヲ別チテ五種トナスコトヲ得一ニ曰ク犯人ノ死去二ニ曰ク刑罰ノ執行終了三ニ曰ク恩赦四ニ曰ク刑罰ノ時效即チ是レ也
第一、犯人ノ死去

犯人ハ刑罰ノ目的物ナルヲ以テ其死亡ト同時ニ刑罰ノ目的物茲ニ消滅ニ歸スルカ故ニ刑罰請求權(即チ公訴權)並ニ刑罰執行權モ亦全ク消滅ニ歸シ去ルモノト謂ハサル可カラス然リ而シテ刑罰請求權消滅ノ原因タル可キ犯人ノ死去ハ該犯人ニ對シ刑罰宣告ノ裁判確定時點以前ナルコトヲ要シ刑罰執行權消滅ノ原因タル可キ犯人ノ死去ハ該犯人ニ對シ刑罰宣告ノ裁判確定時點以後ナルコトヲ要ス蓋確定裁判ハ獨立シテ刑罰請求權消滅ノ一原因ヲ成スモノナルカ故ニ刑罰請求權消滅ノ問題ハ確定裁判時點以前

ニ於テ之ヲ惹起スルニ過キサレ可ク刑罰執行權消滅ノ問題ハ確定裁判時
點以後ニ於テ之ヲ惹起スルニ過キサレ可クレハナリ

第二、刑罰ノ執行終了

刑罰ノ執行終了トハ確定裁判ニ因リ言渡サレタル刑罰ノ本旨ニ從ヒ其執
行ヲ完了シタル場合ヲ指稱ス從テ刑罰執行權ハ茲ニ其目的ヲ到達シ全ク
消滅ニ歸スルヤ言ヲ埃タス

第三、恩赦

恩赦トハ君主ノ大權作用ニ依リ既ニ發生シタル刑罰請求權ノ實體ヲ廢棄
シ若ハ其執行ヲ免除スルヲ謂フ之ヲ別チテ大赦、特赦、減刑ノ三種トナスコ
トヲ得

一、大赦

大赦トハ特定ノ犯罪ニ對スル刑罰權ノ實體ヲ廢棄セシムル君主ノ大權
命令ヲ謂フ(憲法第十六條參照)

大赦ハ特定ノ犯罪ニ對スル刑罰權ノ實體ヲ廢棄セシムルモノナルカ故
ニ當該犯罪ニ對スル確定裁判時點以前ニ於テハ刑罰請求權ヲ消滅セシ
メ當該犯罪ニ對スル確定裁判時點以後ニ於テハ刑罰執行權ヲ消滅セシ
ム從テ大赦ヲ受ケタル犯罪ハ累犯ノ基礎タルコトヲ得サルヤ言ヲ埃タ
ス

但大赦ノ效力ハ單ニ刑法上ノ關係ニ止マルモノナルカ故ニ其民法上ノ
關係ヨリ生スル責任ニ付テハ之カ爲メ消滅ニ歸ス可キモノニ非サルナ
リ

二、特赦

特赦トハ特定ノ犯人ニ對シ既ニ確定シタル刑罰執行權ノ全部ヲ免除セ
シムル君主ノ大權命令ヲ謂フ

特赦ハ單ニ確定シタル刑罰執行權ノ全部ヲ免除セシムルニ止マリ大赦
ノ如ク全ク刑罰權ノ實體ヲ廢棄スルモノニ非サルカ故ニ特赦ヲ受ケタ

ル犯罪ハ大赦ト異リ累犯ノ基礎タルコトヲ得ルモノナルヤ固ヨリ辯ラ
埃タス

三、減刑

減刑トハ特定ノ犯人ニ對シ既ニ確定シタル刑罰執行權ノ一部ヲ免除セ
シムル君主ノ大權命令ヲ謂フ
減刑ハ單ニ確定シタル刑罰執行權ノ一部ヲ免除セシムルニ止マリ大赦
ノ如ク刑罰權ノ實體ヲ消滅セシムルモノニ非サルカ故ニ減刑ヲ受ケタ
ル犯罪ハ累犯ノ基礎タルコト明カナリトス
復權トハ刑罰宣告ノ效果トシテ剝奪セラレタル公權ノ享有能力ヲ付與
スル君主ノ大權命令ナリ(憲法第十六條參照)ト雖我刑法ハ舊刑法ト異リ
全然能力刑ヲ認メサルカ故ニ復權ハ刑罰消滅ノ一原因タラサルコト明
カナリトス

第四、刑罰ノ時効

刑罰ノ時効トハ一定ノ時ノ經過ニ因リ其宣告ノ裁判確定シタル刑罰ヲ消
滅セシメ以テ刑罰執行權ヲ廢棄セシムル制度ヲ謂フ
抑時効制度ヲ設ケタル立法上ノ理由如何ニ付テハ學說多岐ニ分ルト雖今
之ヲ大別シテ概ネ四種トナスコトヲ得曰ク刑罰目的成就說曰ク社會遺忘
若ハ證據湮滅說曰ク事實尊重說曰ク必要說即チ是レ也左ニ之ヲ分說セン
一、刑罰目的成就說

此說ニ依レハ一定ノ期間犯人ニ於テ犯罪ノ審理若ハ刑罰ノ執行ヲ遁ル
ルトキハ日夜戰々競々トシテ其逮捕ヲ恐レ殆ント刑罰ノ執行ヲ受ケタ
ルト同一ナル苦痛ヲ感スルモノナルカ故ニ刑罰ノ目的ハ茲ニ全ク成就
セラレタルモノナリト謂ハサル可カラストセリ
然レ共是レ果シテ總テノ犯人ニ對シ共通の現象也ヤ否ヤ余輩大ニ疑ナ
キ能ハス見ヨ之ヲ實際上ノ事例ニ徵スルモ犯人ノ多クハ其逮捕セラレ
サルヲ奇貨トナシ益々其犯行ヲ敢テスルモノ多キニ居ルニ於テアヤ

二、社會遺忘若ハ證據湮滅說

此說ニ依レハ犯罪後一定時ヲ經過スルトキハ社會ハ遺忘シ犯證ハ全ク湮滅ニ歸スルカ故ニ採リテ以テ之ヲ審理シ刑罰ノ執行ヲ加フルノ必要消滅シタルモノナリト謂ハサル可カラストセリ

然レ共一定時ノ經過ハ必スシモ社會ノ遺忘若ハ犯證ノ湮滅ヲ來タス可キモノニ非サルハ勿論假ニ社會ノ遺忘若ハ犯證ノ湮滅ヲ來タス可キモノ也トスルモ如此事實ノ存在ハ未タ以テ其既ニ發生シタル刑罰請求權若ハ刑罰執行權ヲ消滅セシムルノ理由トナスニ足ラサル也

三、事實尊重說

此說ニ依レハ犯罪後一定時ヲ經過スルヤ此レニ因リテ攪亂セラレタル國家ノ秩序ハ茲ニ漸ク平靜ニ歸スルヲ以テ若シ之ヲ處罰スルモノトナストキハ却リテ國家ノ秩序ヲ紊亂スルニ至ルカ故ニ法律ヲシテ遂ニ事實ニ屈從セシメ以テ其調和ヲ圖ラントスルニ外ナラストセリ

然レ共犯罪ハ常ニ法益侵害ノ結果若ハ危險ヲ惹起セシメタル行爲ナルカ故ニ如何ニ長年月ヲ經過スルモ其侵害セラレタル法益ニシテ救済セラルルモノアルニ非サレハ尙依然トシテ其痕跡ヲ止ム可ク從テ犯罪ニ因リテ攪亂セラレタル國家ノ秩序ハ尙依然トシテ其狀態ヲ持續セララルモノナリト謂ハサル可カラス

四、必要說

此說ニ依レハ犯罪後一定時ノ經過ニ因リ刑罰請求權若ハ刑罰執行權ノ消滅ヲ認ムル所以ノ者一ニ國家生存上ノ必要ニ基因スルモノ也トセリ蓋國家刑罰權ノ根源ハ國家生存上ノ必要ニ基ツクコト既ニ緒論ニ於テ述ヘタルカ如シ從テ既ニ一旦其發生ヲ認メラレタル箇々ノ刑罰權モ亦事後ノ事實ニ因リ其存續ヲ認ムルノ必要ナキニ至ラハ之カ消滅ヲ認ムルハ實ニ刑罰權ノ根源ニ適合シタル至當ノ處置ナリト謂ハサル可カラス果シテ然ラハ時効制度設置ノ立法上ノ理由タルヤ此說ヲ措イテ未タ

他ニ適當ナル學說アルヲ知ラサルナリ
今左ニ時効ノ計算法、時効ノ停止及ヒ其中斷、時効ノ完成期間、時効ノ效果ニ
付逐次之ヲ説述スヘシ

一、刑罰ノ時効ノ計算法

刑罰ノ時効ハ其刑ヲ言渡シタル裁判(判決、決定、確定)ノ日ヨリ進行シ(刑法
第三十二條)期間ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス(同第二
十四條第一項後段)

如上ノ外期間計算ニ關スル第二十二條其他民法中ニ於ケル期間ニ關ス
ル規定ニ依ラサル可カフサルモノトス

二、刑罰ノ時効ノ停止及ヒ其中斷

(一) 時効ノ停止

刑罰ノ時効ハ法令ニ依リ其執行ヲ猶豫シ(刑法第二十五條參照)又ハ之
ヲ停止シタルトキ(刑事訴訟法第三百十八條ノ三第一項、第三百十九條

第二項各號參照)ハ其期間内ハ進行セス(刑法第三十三條)

停止セラレタル時効ハ何時其進行ヲ開始ス可キモノナリヤト謂フニ
執行猶豫ノ場合ニ於テハ其執行猶豫取消ノ裁判確定ノ日ヨリ進行ス
可ク刑事訴訟法第三百十八條ノ三第一項又ハ同第三百十九條第二項
各號ノ場合ニ於テハ其停止ノ事由消滅ノ日ヨリ起算ス可キモノトス

(二) 時効ノ中斷

刑罰ノ時効ハ左ノ事由ノ發生ニ因リテ之ヲ中斷ス

(イ) 生命刑(死刑)自由刑(懲役刑、禁錮刑、拘留刑)ノ時効ハ其刑ノ執行ニ付犯

人ヲ逮捕シタルニ因リテ之ヲ中斷ス(刑法第三十四條第一項)

(ロ) 財産刑(罰金刑、科料刑、沒收刑)ノ時効ハ執行々爲ヲ爲シタルニ因リテ
之ヲ中斷ス(同條第二項)

時効ノ停止ハ其停止期間内時効ノ進行ヲ停止スルニ過キサルカ故ニ其
既ニ有效ニ經過シタル日數ハ之ヲ算入ス可キモノナリト雖時効ノ中斷

ハ其既ニ經過シタル日數ハ之ヲ算入セス其中斷事由ノ終了日時ヨリ更ニ新ニ其進行ヲ開始ス可キモノナリトス

三、刑罰ノ時効ノ完成期間

刑罰ノ時効ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判(判決決定)確定後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リテ完成ス(刑法第三十二條)

- (一) 死刑ハ三十年
- (二) 無期ノ懲役刑又ハ禁錮刑ハ二十年
- (三) 有期ノ懲役刑又ハ禁錮刑ハ
 - (イ) 十年以上ハ十五年
 - (ロ) 三年以上ハ十年
 - (ハ) 三年未滿ハ五年
- (四) 罰金刑ハ三年
- (五) 拘留刑科料刑沒收刑ハ一年

四、刑罰ノ時効ノ效果

刑罰ノ時効ノ完成ハ刑罰執行權ヲ消滅セシメ其宣告確定シタル刑罰ノ執行ヲ免除スルノ效果ヲ生ス(刑法第三十一條)

刑罰ノ時効ノ完成ハ單ニ其執行免除ノ效果ヲ有スルニ止マリ刑罰宣告ノ效力ヲ全然消滅セシムルモノニ非サルカ故ニ其執行ノ免除ヲ受ケタル犯罪ト雖亦累犯ノ基礎タルコトヲ得可シ是レ大赦若ハ執行猶豫ノ完成ト其效果ヲ異ニスルノ一点ナリトス

刑罰ノ消滅ヲ終ルニ臨ミ一ノ附加ス可キモノアリ何ソヤ他ナシ刑罰ノ消滅ト刑罰ノ執行猶豫ノ完成トノ關係即チ是レ也

蓋執行猶豫タルヤ刑罰執行ノ猶豫ニ外ナラサルヲ以テ其言渡アリタル裁判ノ確定ハ未タ以テ刑罰執行權ヲ發生ス可キモノニ非サルカ故ニ執行猶豫ノ完成ハ刑罰執行權(本章ニ所謂刑罰權)消滅ノ原因タルコトナキヤ論ヲ埃タス何者凡ソ權利ノ消滅ハ權利ノ存在ヲ其前提トスルモノナルカ故ニ未タ發生セサル權

利ノ消滅ハ之ヲ想像スルコトヲ得サレハナリ

刑法總論終

刑 法 總 論

明治四十四年九月二十三日印刷
明治四十四年九月二十六日發行

定價金壹圓五拾錢



著 作 者 山 中 靜 次

發 行 者 長 尾 清 一

印 刷 者 白 土 幸 力

東京市神田區錦町三丁目一番地

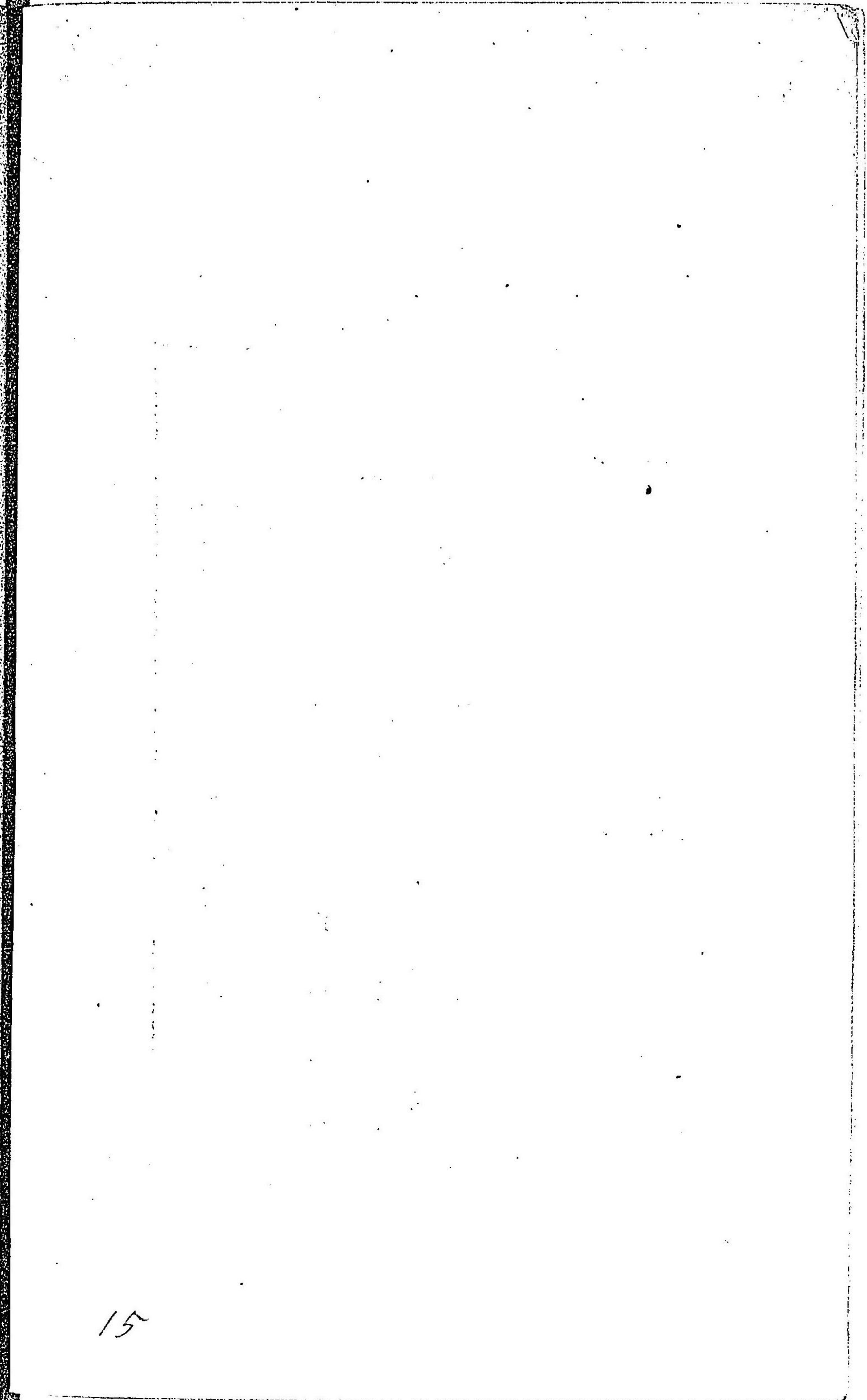
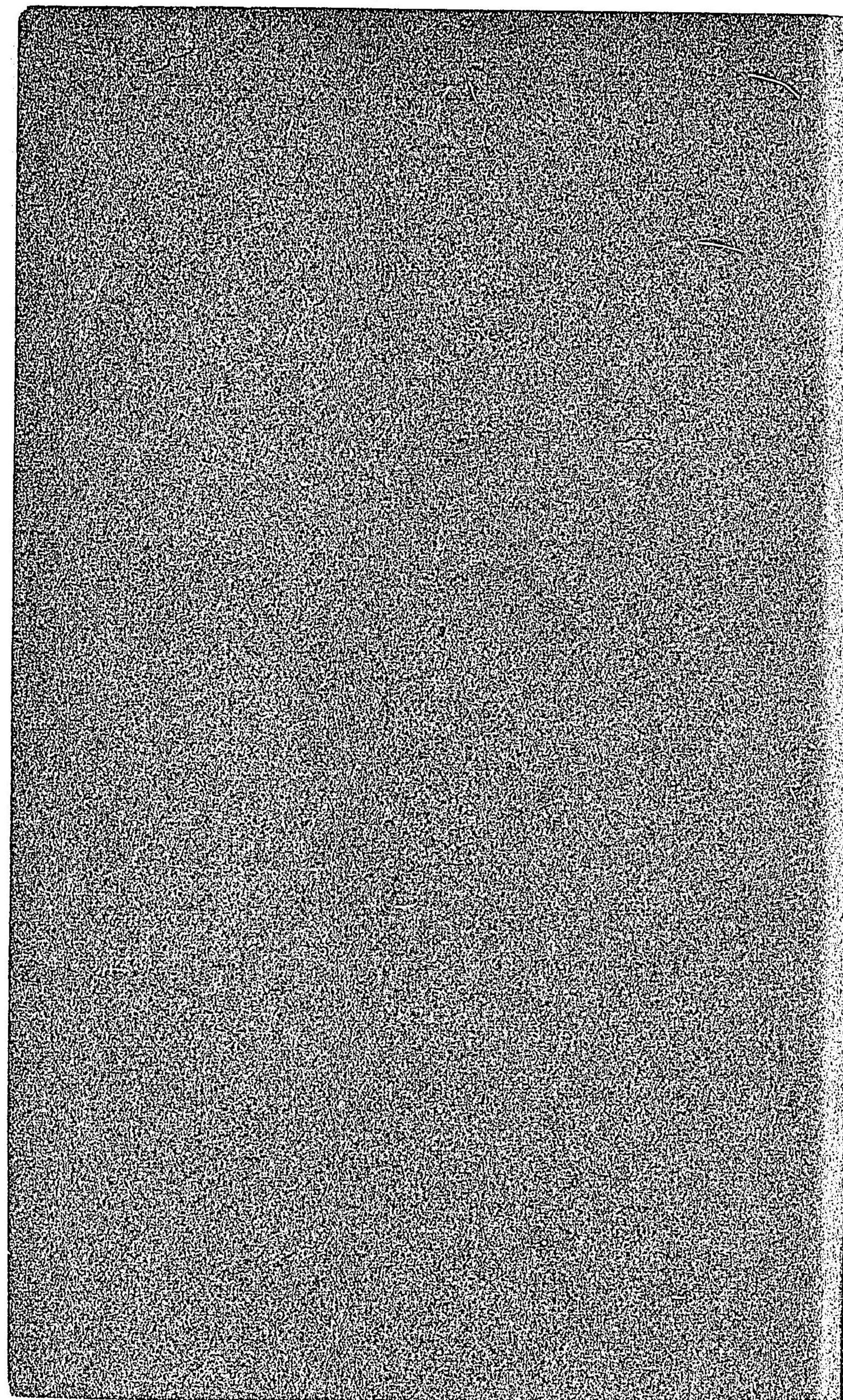
發 兌 元 法 令 研 究 會

東京四谷 振替口座一〇五〇七
右京町 電話番町二五七九

賣 捌 所 東 京 市 神 田 區 一 ッ 橋 通 町 有 斐 閣 書 房

賣 捌 所 東 京 市 神 田 區 中 猿 樂 町 巖 松 堂 書 店

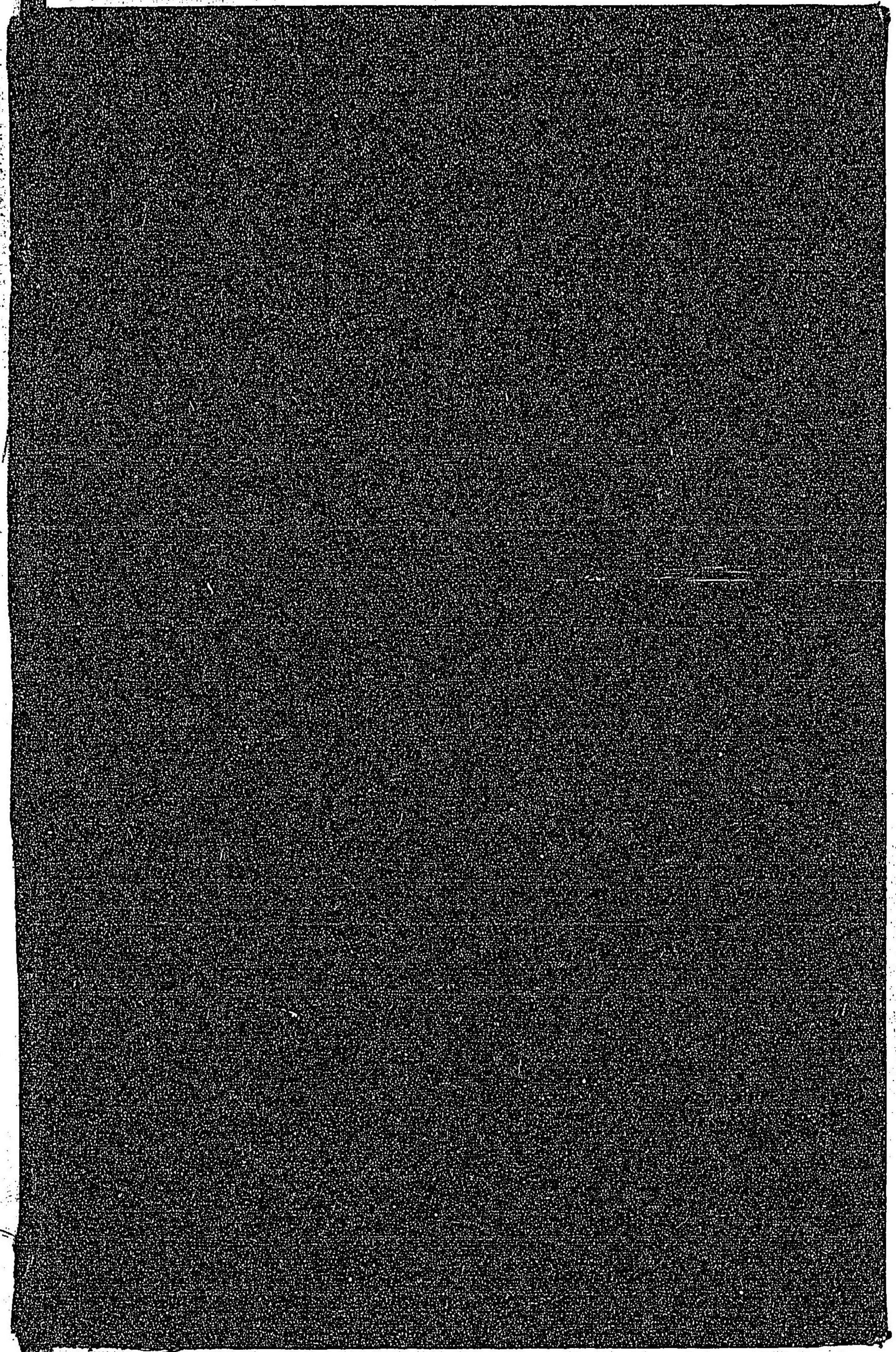
(註九三 地番一日丁二町代土英區田神市京東 所印)



15

336

58



336

58

035782-000-0

336-58

刑法総論

山中 静次/著

M44

BBP-0368

